

令和7年度学校評価

1 めざす学校像・重点目標

「安心して安全に生活でき、一人一人が力を発揮できる学校」

重点目標

1 生徒に寄り添った指導

- ・自分を大切にする心、人を思いやる心、感謝する心を育成する。
- ・生徒指導上の問題の早期発見、早期対応に努め、学校として組織的に対応する。
- ・個に応じたキャリア教育を実践し、自立や進路の実現に向けて必要な力を高める。

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

- ・タブレット端末の活用などICT教育を推進し、自ら課題解決に臨む態度を育てる。
- ・言語活動を充実させ、コミュニケーション力と対話を通して判断する力を高める。
- ・考える授業、分かる授業を実践し、基礎学力の向上を定着を図る。

3 地域とつながる教育活動の充実

- ・地域社会との交流や共同学習を通して、社会経験を積みながら学びを深める。
- ・専門家や外部講師と連携し、専門的で生活に役立つ知識・技能の向上を図る。
- ・SNSや報道機関などを利用し、本校の魅力を継続的に発信する。

2 評価結果と課題

(1) 生徒に寄り添った指導

- ・各教科、他者と関わる中で意図的に考える機会を設定し、考え方を明確に示すなどの丁寧な指導を行った結果、生徒自身が考えて活動を進めることができるようになった。
- ・授業以外の場面でも、保健室利用時や避難訓練等において生徒の実態に合った指導を継続して行うことで、少しずつそれぞれの成果が出てきている。
- ・生活アンケートを実施し、生徒の心情変化の把握や共有を行った。重大事態に発展することを防ぐことができた。
- ・保護者アンケートの結果からは、6割強の保護者の方から生徒に寄り添った指導がなされているという評価をいただいた。

⇒ 今後はさらに、生徒の実態把握に努め、教員間で情報共有をして、個々に合った学習指導、生徒指導を行っていききたい。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

- ・授業や話し合い活動においてICT機器を日常的に活用し、思考や表現力を引き出すための手立てを考え実践することができた。
 - ・家庭学習やプリント学習時の課題におけるICT機器の活用事例を集めた。
 - ・教職員相互の授業参観や手話講座、ICT機器活用の学習会などを通じて授業力の向上を図った。
- ⇒ 授業や授業以外でも生徒同士の対話の場を設けたり考える機会を設けたりするとともに、教員間でICT機器の活用事例等の情報共有に努め、主体的に考え行動できる生徒の育成に努めていきたい。

(3) 地域とつながる教育活動の充実

- ・昨年度に引き続き県内の聾学校との体験交流や名城大学とのSDGs活動、新たな企業と連携したものづくりなどに取り組み、社会とつながりながら学ぶことができた。

⇒ 今後も社会経験を積めるよう、外部連携機関と継続した取組を改善しながら進めていきたい。

学校評価結果と課題

- 重点目標 1 生徒に寄り添った指導
 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善
 3 地域社会とつながる教育活動の充実

部・校務	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
中学部	・課題解決に向けて生徒が支え合い、話し合う授業づくり	・言語活動や体験活動等を通して、他者と積極的に関わり、学びを深める機会を多く設定する。	・各教科、他者と関わる中で自分の考えをまとめたり、深めたりする機会を設定し進めた。方針等を示せば、生徒自身が考えて活動を進めることができた。自分の意見は言うことができて、友達の意見を受け入れることが難しい面も見られたので、適宜助言をするなどして話し合い活動等をより円滑に進められるようにしていきたい。 ・タブレット端末については、経験を重ねるにつれ情報収集や発表等でうまく使えるようになった。一部の生徒は必要性を感じておらず、タブレット端末の準備ができないことがあった。
高等部	・思考力や表現力を育てる授業づくり	・社会的自立に向けて、外部関係機関と連携して社会経験を積みながら学んだり、ICT機器を効果的に活用しながら学び合ったりする授業を行い、学力向上を図る。	・多くの先生方が、授業や話し合い活動においてICT機器を日常的に活用し、思考力や表現力を引き出すための手立てとして考えることができた(88.4% 回答数43名)。授業では、生徒が自分の考えを視覚的に整理し、他者の意見と比較しながら深める場面が設定され、協働的な学びを意識した実践が多く見られた。外部関係機関との連携では、昨年度に引き続き県内の豊学校との体験交流、名城大学とのSDGs活動、新たな企業と連携したものづくりなどに取り組み、社会とつながりながら学ぶことができた。 ・多くの生徒が自己理解を深めながら自分に合った進路を選択することができた。一方で、思考力や表現力を評価する共通の指標や視点を十分に整理していないため職員からの聞き取りによる評価になってしまったのが課題である。
総務部	・PTA活動の内容を精選し、保護者の負担を減らす運営方法の模索	・PTA役員を減らす。 ・総会の議事をマチコメールで周知する。 ・PTAだよりの内容のスリム化する。 ・文化祭模擬店の運営方法を見直す。	・PTA総会を書面にて開催し、滞りなく行うことができた。保護者と対面する機会が1回分減るため、懇談会、参観日等での情報交換をより密に取っていく。 ・PTA役員と相談しながら、PTAだよりの内容をスリム化するとともに発行回数を減らし、役員の負担軽減を図ることができた。 ・文化祭のPTA模擬店について、販売物品数を減らしたり前売り券をなくしたりし、運営の負担を減らすことができた。まだまだPTA活動の負担を感じられる保護者も多いため、負担の軽減と生徒へ還元できることのバランスを取っていく。
教務部	・生徒の家庭でのICT機器の活用方法の集約	・家庭学習やプリント学習時の課題においてタブレット端末を活用できる取組を考える。	・全部で12の教科・学科にアンケート用紙を配付したところ、3つの教科・学科から回答があり、7つの事例が集まった。集まった事例を職員に周知、連携し、タブレット端末のより幅広い活用方法を共有していきたい。
教育情報部	・学校公式SNSを活用した、本校の魅力を継続的に発信する体制づくりと安定した情報発信	・生徒の活動や行事を週2回以上発信する。 ・各学年・学科の行事担当者に情報提供と記事作成を依頼する。 ・投稿用テンプレートを用意し、投稿の質を安定させる。	noteでは、4月から1月までの10ヵ月間で目標を大きく上回る165本の記事を投稿した。Instagramでは、年度当初からの投稿数36本と多くないものの、生徒発案・製作の動画を投稿したことにより、愛知県立学校でもトップクラスのフォロワーを獲得し、「多くの方に見ていただける」アカウントへと成長した。引き続き本校の魅力を広めるため情報発信を継続していく。

生徒指導支援部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒及び教職員の安全に対する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の消防局、消防署、警察署と連携し、より実践的な訓練の実施、より安全な校内環境の整備に努める。 安全に関連する話題を定期的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒集会で安全に関連する講話を行ったり、マチコミを通して安全に関連する資料を定期的に発信したりした。今年度、校内における貴重品の紛失は減少した。 地域の警察署と連携して、より実践的な不審者対応訓練を行い、対応の見直しを行った。 実際の災害時を想定して避難経路を一部封鎖したり、集合場所を放送で連絡したりするなど、より実践的な訓練内容に改めた。参集後の職員の点呼については、昨年度の課題を受けて見直しを図ったが、まだ十分に浸透していないため、引き続き、職員の意識の向上を図っていく必要がある。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の伝達方法および進路指導の手引きの活用方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 会社・福祉事業所案内について、メールでの周知頻度を増やす。 教員・保護者対象の会社見学会を実施する。 授業での進路指導の手引きの活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 会社・事業所案内のほか、学校に届いた求人票の情報についてもメールで周知を行った。 8月上旬に、教員・保護者対象の会社見学会を開催した。教員が約20名が参加し、障害者雇用についての理解を深めた。 生徒集会で手引きの活用方法を周知した結果、一部担任による授業での手引きの活用が見られた。また、手引きの改訂を行い、情報の追記や仕様の改善を行い、より見やすい工夫を行えた。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> けがをした時や体調が悪い時の相手への正確な状況の伝達 災害時などを想定した、自分だけではなく周囲の状況の正確な伝達 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室に来室した際の来室記録は、生徒が振り替えられるよう正確に記録できるよう伝える。 生徒指導支援部と連携し、総合防災訓練時、状況を正確に伝えられるよう訓練をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 来室記録の記入に慣れ、記入も早くなったが、けがの発生原因の記入については支援が必要である。様式の変更も併せて検討したい。 総合防災訓練で行った意思疎通訓練では、生徒に知っておいてほしい内容を伝えることはできた。対象の学部（今年度は高等部本科2年生）だけではなく、全校の生徒への周知を図っていきたい。
自立活動研修部	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導と協働的な学びを目指した自立活動の授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 校外の専門家を活用し、発音指導の充実を図る。 授業で活用できるように、聴覚障害に関する情報提供を充実させる。 自立活動の手引きを見やすい形に改定し、手引きの活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語聴覚士による発音指導を見学したり、指導の様子を撮影した映像の視聴を行ったりし、職員の発音指導力の向上を図ることができた。 teamsを活用して、手話や聴覚障害に関する情報提供を定期的に行った。手話以外にも、福祉や豊文化など発信する情報を充実させることが今後の課題である。 自立活動の手引きの改定に向けて、「本校における自立活動」について整理し、明文化した。来年度も検討、改定を継続し、より使いやすい手引きの作成を行う。

いじめ防止に向けた取組

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導支援部	<ul style="list-style-type: none"> いじめの早期発見と認知及び組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケート及び生徒との面談を実施し、生徒の心情の変化を丁寧に把握する。 生徒情報の積極的な共有に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の初めに生活アンケート及び個別面談を実施し、生徒の心情変化の把握及び共有に努め、必要があれば迅速に対応した。 毎週、生徒情報交換会を行うことで、生徒に関わる情報を迅速に共有することができた。また、必要に応じてケース会や生徒支援委員会につなぐことで、重大事態に発展することを防ぐことができた。 SNS上のトラブル（悪口、不適切な言い回しなど）について、今後も継続して注意喚起をしていく必要がある。

多忙化解消に向けた取組

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の協働した業務による、仕事の効率化や在校時間の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> 主任を中心に各部署での同僚性を高めたり、OJTを推進したりし、学年や校務分掌、教科等で連携や協働をする。 校務支援員へ効果的な業務の依頼をする。 月の平均施錠時刻や在校時間について、安全衛生委員会や運営委員会で定期的に報告し、現状把握や改善に向けて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員評価シートの達成状況に、各部署の関係職員と情報を密にやりとりし、連携して職務遂行できたという達成状況が多くみられた。 校務支援員への業務依頼により、資料の綴じ合わせ、書類整理など校務の業務負担が軽減した。引き続き取り組む。 安全衛生委員会にて月の平均施錠時刻や在校時間について報告し、経年変化や現状把握をした。施錠時刻は、昨年度と比べ年度始めは早かったが徐々に昨年度並みとなり、二学期は遅くなっている。一部の職員に行事等の業務が重なり、退勤が遅くなったことが要因である。次年度に向けて、業務の重なりを軽減する方策を検討していく。